で來り訪問者の顏を見るや否や聲高に『阿母さんまた來ましたよ來でもよいのにねー』と申しましたので、友人は怫然として歸つたと申します。

誰が子供にそんな事を敎へましたらう？

---

# 或母の日記（第二回）

無名氏

生後四五六ヶ月間の記事

（即ち三十四年一月より三月に至る）

現今周圍の狀況

住所　海岸小都會を距つる凡一里の田舍にして積雪の中に埋もる住居は借宅にして宅には老婆一人なり

交際　前に述べたる如き田舍にして殊に積雪の時節なるを以て日常他と交際する事至て少したゞ一夜隔てゝ入湯に行く某家の家族のみ

滿三ヶ月頃よりして分らぬ言葉にて人に話する事を始めしがしばらく中絶し又十五週頃よく頻りに話をなせり朝未明に父母に先ちて目を醒まし安眠を妨ぐる少なからざりき

因に云ふ十五週とは生後第十五週の意なり以下之に同じ

第十八週頃より耳さとくなり少しのせきばらいに驚きて泣く其頃より赤き色を見て喜こぶやうなり又しきりに手を吸はんとせり

第二十週迄は手に物を握らするときは厭やがりて泣きしが其頃より柔かなるものを握り放さゞるに至れりそれより五六日を經て夜枕紙をさきて口に

入れ母を驚かせり

百五十一日目にて獨にて坐る事できたり

此頃より婦人と子供といふ雜誌を購讀せり

第二十二週に及びて母親を見知りたるやうに思はる

咳拂ひと放屁する事は極大なり

三月十四日母と共に母の實家に行けり凡そ三日間人の顏を見る毎に泣けり見覺ゆるに及びて泣かずなれり祖父母其他の人々田舍育ちの人見ずと笑へり

第二十五週頃より小便をする事に馴れたり

## 看護法（承前）

醫學士　長瀨復三郎

（呼吸）これは一寸見ても、氣の付く事ですが、通例生れたての子供、即ち初生兒から三年迄の子供は、腹呼吸をする、呼吸を營むに腹と胸とでする、胸が能く動くとか、腹が能く動くと云ふ事がある、三年以下の子供は腹呼吸ばかりやつて、子供の時は口より鼻で呼吸する、其呼吸の數は一分時間は初生兒は三十二乃至四十四が通例である、初生兒の呼吸を見るに見て居るだけでは判らぬ、胸に手を當てゝ數へれば數へられる、尤もこれは安息の時で、泣いて居る時驚いた時は是れより多い、それから三年からして四年になると三十五からして二十五位までに減ずる、七歳になると二十から十八に減ずる、これより呼吸が促迫になれば胸に病氣があつて肋膜又は肺の病氣があると云ふ事が推察される其時は息使ひが荒くなつて鼻翼を動かして呼吸するから、顏を見ても呼吸が忙がし